

音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース (MA専攻)  
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ(前期)	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ(後期)	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	PC知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
実習	映像Ⅱ	68	2	2
実習	Pro Tools基礎Ⅱ	68	2	2
実習	Pro Tools応用Ⅱ	68	2	2
演習	レコーディング基礎Ⅱ	68	2	4
演習	レコーディング応用Ⅱ	68	2	4
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	42

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。                  ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。                  ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。                  ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。                  ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p>					

対策	
【前期】 1～3回目	自己紹介:対策と解説
【前期】 4～7回目	マナー基本編の復習と応用編(ステップupマナー)
【前期】 8～10回目	マナーの実技編とアドバイス
【前期】 11～13回目	コミュニケーションの復習(話し方・聞き方・表情・態度)・実技編
【前期】 14～17回目	前期試験:マナー・コミュニケーションのレポート提出と実技の実施
【後期】 18～20回目	就活の為のマナー編(面接時における対応・入室・座・退室)
【後期】 21～24回目	質問に対する返答への対策
【後期】 25～27回目	社会人としての仕事への取り組み方
【後期】 28～30回目	仕事をして行く中で マナー・ルールが相手の立場を考え仕事を円滑に運んだり、トラブルを未然に防いだりする事の必要性
【後期】 31～34回目	後期試験:自己アピール(プレゼン)と好感の持てる社会人とは レポート提出
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはいくらから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。				
授業概要					
音響・録音についての技術や機器、背景などの歴史を学習する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・録音史について基礎的な知識を得る。</li> <li>・技術の変遷を理解し、現代でも使われている技術や機器について理解を深める。</li> <li>・音とはなんなのかに注目し、歴史のなかでそれがどの様に捉えられてきたかを学ぶ。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アナログとデジタルについて 蓄音機誕生について
【前期】 4～7回目	円盤式蓄音機について 電気録音とラジオについて
【前期】 8～10回目	LPとEP、ステレオについて アナログ・オーディオ全盛期について
【前期】 11～13回目	磁気録音の歴史 前期のおさらい、応用的な内容の学習
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	前期のおさらい デジタル録音、CDについて
【後期】 21～24回目	MDの誕生 DATの開発について
【後期】 25～27回目	DVDの誕生 ステレオからサラウンドへ
【後期】 28～30回目	SA-CD、DSDIについて デジタルオーディオがもたらしたもの
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	PAやレコーディング、ミキシングの職において重要な歴史の知識を身につけましょう。テキストに添いつつ解説を挟みながら行います。
備考	教材として「音響技術史～音の記録の歴史～」(森 芳久 他著)を使用。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要	映像中のサウンドをさまざまな視点から解析し、音の役割を理解することで、サウンドデザイナーとして必要な感性を磨いていく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像の中に存在する音を聴き分け、どんな役割があるか理解できるようになる。</li> <li>・音を様々な観点から見る視点を持ち、それを実際の作業に落とし込めるようになる。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	リスニングについての学習 音についてさまざまな視点からの考察
【前期】 4～7回目	映像内の音の考察① クオリティ向上のための編集テクニックについての学習①
【前期】 8～10回目	映像内の音の考察② クオリティ向上のための編集テクニックについての学習②
【前期】 11～13回目	映像内の音の考察③ クオリティ向上のための編集テクニックについての学習③
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験の実施
【後期】 18～20回目	BGM、SE、セリフ、ナレーションなど 定位とバランスについての学習①
【後期】 21～24回目	BGM、SE、セリフ、ナレーションなど 定位とバランスについての学習②
【後期】 25～27回目	BGM、SE、セリフ、ナレーションなど 定位とバランスについての学習③
【後期】 28～30回目	1年間のまとめ 質疑応答
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	様々な映像素材をもとにサウンドデザインを磨いていきます。 とにかくまずはトライ＆エラーです。たくさん試し、失敗し、学んでいきましょう。
備考	都度講師が準備した映像素材を使用。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。				
授業概要	ProTools技術認定試験の内容をもとに、AVID社の提供する資格を獲得できるレベルの知識と技術を獲得する。また、毎授業ごとに課題を課し、知識と技術の定着を図る。				
到達目標	<p>・ProToolsを実際の現場で求められる水準で素早く正確に操作できるようになる。</p> <p>・ProToolsのシステムを体系的に理解し、未知のトラブルに遭遇した際にも冷静に対処できる程度の知識、技術及び応用力を獲得する。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro Tools 概要 基礎・応用で学んだ内容を振り返り、知識の欠落があるものを補完する。
【前期】 4～7回目	レコーディングの準備・設定 様々な場面を想定し、すべて自身一人で考え、設定できるように繰り返しトレーニングを行う。
【前期】 8～10回目	レコーディング 想定しうるトラブルとそのシューティングについて学ぶ。
【前期】 11～13回目	オーディオの編集 専門用語の復習を行う。また、実際の活用例を示しながら各ツールでできることを理解する。
【前期】 14～17回目	前期試験：実技試験及び筆記による知識・技術の習得レベルの確認
【後期】 18～20回目	ミックスで使うツールについて① より高度なツール・プラグインについて解説する。
【後期】 21～24回目	ミックスで使うツールについて② より高度なツール・プラグインについて解説する。
【後期】 25～27回目	Pro Tools システム ハード面の知識を獲得し、ProToolsを体系的に理解していく。
【後期】 28～30回目	シンク、MIDI 多重録音について、また、複数のMTR、VTRなどを連動させるためのシステムについて学ぶ。 MIDIデータの取り扱いについてより高度な知識を学ぶ。
【後期】 31～34回目	後期試験：実技試験及び筆記による知識・技術の習得レベルの確認
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Pro Toolsをより専門的に理解し実践できるようにします。 高度な内容になるので、不明点は授業中に解消して課題に取り組めるようにしましょう。
備考	発展的な授業のため、都度出される課題に取り組んでいることを前提に授業を進行します。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからパリン、スタジオ実習に関する実習を行う。				
授業概要	日本ポストプロダクション協会が行う「映像音響処理技術者資格認定試験」の内容を題材にし、MAエンジニアに必要な知識を学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「映像音響処理技術者資格認定試験」に合格できるレベルの知識を身に着ける。</li> <li>・試験学習の中でMA/サウンドデザイナー職の業務の流れを理解し、現場レベルで役立つ発想力を鍛える。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ポストプロダクションに関わる業務の理解 電気信号の基礎知識の学習
【前期】 4～7回目	映像基礎知識の学習 色・光・信号・撮影技術・放送・モニター他
【前期】 8～10回目	映像編集技術について①
【前期】 11～13回目	映像編集技術について②
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験の実施
【後期】 18～20回目	映像音響処理技術者資格認定試験に向けての学習① 模擬試験、復習および応用的な知識の学習
【後期】 21～24回目	映像音響処理技術者資格認定試験に向けての学習② 模擬試験、復習および応用的な知識の学習
【後期】 25～27回目	現状の学習進捗の振り返り・対策
【後期】 28～30回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習③ 模擬試験、復習および応用的な知識の学習
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	実際の試験問題を通して、MA/サウンドデザインの業務に必要な知識を身につけましょう。
備考	教材として「ポストプロダクション技術マニュアル」「2025年度版映像音響処理技術者資格認定試験 問題集 技術資料集」を使用。 また、映像Ⅱの授業と連動し進行する。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要	映像中のサウンドをさまざまな視点から解析し、音の役割を理解することで、サウンドデザイナーとして必要な感性を磨いていく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像の中に存在する音を聞き分け、どんな役割があるか理解できるようになる。</li> <li>・音を様々な観点から見る視点を持ち、それを実際の作業に落とし込めるようになる。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	リスニングについての学習 音についてさまざまな視点からの考察
【前期】 4～7回目	映像内の音の考察① クオリティ向上のための編集テクニックについての学習①
【前期】 8～10回目	映像内の音の考察② クオリティ向上のための編集テクニックについての学習②
【前期】 11～13回目	映像内の音の考察③ クオリティ向上のための編集テクニックについての学習③
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験の実施
【後期】 18～20回目	BGM、SE、セリフ、ナレーションなど 定位とバランスについての学習①
【後期】 21～24回目	BGM、SE、セリフ、ナレーションなど 定位とバランスについての学習②
【後期】 25～27回目	BGM、SE、セリフ、ナレーションなど 定位とバランスについての学習③
【後期】 28～30回目	1年間のまとめ 質疑応答
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	様々な映像素材をもとにサウンドデザインを磨いていきます。 とにかくまずはトライ＆エラーです。たくさん試し、失敗し、学んでいきましょう。
備考	都度講師が準備した映像素材を使用。 ※楽器知識Ⅱで得た知識をもとにProToolsを用いた実技の授業として実施。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	映像製作実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	映像Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	絵画教室講師、3DCG映像制作会社勤務を経て、現在フリーランスのイラストレーターとして活動中。 大手食品メーカー店内イラストや冊子挿絵、様々なパンフレットデザイン等、幅広く制作。 作家として、ライブペイントや個展・グループ展も開催。その他、デザイン系専門学校講師兼任。				
授業概要	映像音響処理に必要な知識を身につける。 Adobe Premiere Pro、After Effectsの基本操作や応用方法を身につけ、動画編集について実習を行う。				
到達目標	・映像の基礎知識を理解する。 ・動画編集に必要なPC技術を身に着ける。				

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	「色の基礎・iMovie 基本操作」
【前期】 9～16回目	「編集の基礎・Adobe Premiere pro 基本操作」
【前期】 17～24回目	「映像信号の基礎」
【前期】 25～32回目	「編集技術の基礎」
【前期】 33～37回目	「デジタル映像信号の規格」 ■前期試験:実技試験
【後期】 38～45回目	「各種VTRフォーマットについて・Adobe After Effects 基本操作」
【後期】 46～53回目	「デジタルテレビ放送の基礎」
【後期】 54～61回目	「編集機器、周辺機器について」
【後期】 62～69回目	「映像信号の測定、管理について・撮影技術の基礎」
【後期】 70～74回目	「フィルム関連作業の基礎」 ■後期試験:実技試験
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解 /正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	普段何気に見ているTVや映像作品の制作工程には「プリプロダクション」と「ポストプロダクション」に分類されます。 完成した作品を放送局等へ納品する際、厳しく定められた技術基準や規格に合った納品形態が求められます。 知識を身につけながら、編集技術も磨き、映像分野に強い人材を目指します。
備考	講師作成資料を適時配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MA編集基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	ProTools基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
実際にナレーションやアフレコのレコーディング、整音、ミックス作業を行いMAエンジニアとしての経験を積んでいく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。</li> <li>・RXを用いた録音音声などのノイズ除去技術の習得。</li> <li>・さまざまな音声素材に対しての編集、ノイズ除去を学習し、実務で対応できるようにする。</li> <li>・アプリケーション(Pro Tools、RX、Video Slave)の操作において、ショート・カット等を用いて、滞りなく各セッションを進めることができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro Toolsを使用したレコーディング素材の整音作業
【前期】 4～7回目	ノイズ除去ソフト(RX)を使用したレコーディング素材の整音作業
【前期】 8～10回目	SE及びMEを含めたミキシング作業
【前期】 11～13回目	ライブウィークに向けた担当シーンの割り当てやミキシング作業に関するディスカッション。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を実施し、ProTools、RXを使用した整音、及びミキシングのスキルを問う。
【後期】 18～20回目	ProTools・RXの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上①
【後期】 21～24回目	ProTools・RXの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上②
【後期】 25～27回目	ProTools・RXの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上③
【後期】 28～30回目	卒業制作
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験を実施し、MAIにおける整音、ミキシング全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 理解 / 正確性 / 機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際の現場の流れなどを学び、ProTools及びProToolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得します。
備考	特になし。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MA編集応用Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	ProTools応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
<b>授業概要</b>					
実際にナレーションやアフレコのレコーディング、整音、ミックス作業を行いMAエンジニアとしての経験を積んでいく。 ※MA編集基礎Ⅱの内容を基に2コマ目として実施					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。</li> <li>・RXを用いた録音音声などのノイズ除去技術の習得。</li> <li>・さまざまな音声素材に対しての編集、ノイズ除去を学習し、実務で対応できるようにする。</li> <li>・アプリケーション(Pro Tools、RX、Video Slave)の操作において、ショート・カット等を用いて、滞りなく各セッションを進めることができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro Toolsを使用したレコーディング素材の整音作業
【前期】 4～7回目	ノイズ除去ソフト(RX)を使用したレコーディング素材の整音作業
【前期】 8～10回目	SE及びMEを含めたミキシング作業
【前期】 11～13回目	ライブウィークに向けた担当シーンの割り当てやミキシング作業に関するディスカッション。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を実施し、ProTools、RXを使用した整音、及びミキシングのスキルを問う。
【後期】 18～20回目	ProTools・RXの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上①
【後期】 21～24回目	ProTools・RXの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上②
【後期】 25～27回目	ProTools・RXの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上③
【後期】 28～30回目	卒業制作
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験を実施し、MAにおける整音、ミキシング全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 理解 / 正確性 / 機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際の現場の流れなどを学び、ProTools及びProToolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得します。
備考	特になし。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MA実習基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディング基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。				
<b>授業概要</b>					
<p>①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。</p> <p>②実際にナレーションやバンドのレコーディングをオペレートする事でレコーディング及びMAエンジニアとしての経験を積んでいく。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レコーディングの全体像を理解し、常に先読みした行動がとれる。</li> <li>・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。</li> <li>・コンソールなどの音響機器の操作において、実務でも素早く対応できるような技術・知識の習得。</li> <li>・アプリケーション(Pro Tools、RX、Video Slave)の操作において、ショート・カット等を用いて、滞りなく各セッションを進めることができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディング実習(ナレーションレコーディング) 仕込み、オペレート、バラし、整音まで一連の流れを実践する。
【前期】 4～7回目	レコーディング実習(ナレーションレコーディング) 仕込み、オペレート、バラし、整音まで一連の流れを実践する。
【前期】 8～10回目	レコーディング実習(アフレコレコーディング) 仕込み、オペレート、バラし、整音まで一連の流れを実践する。
【前期】 11～13回目	レコーディング実習(アフレコレコーディング) 仕込み、オペレート、バラし、整音まで一連の流れを実践する。
【前期】 14～17回目	■前期試験: 実技試験を実施し、ProToolsや各機器の正確性及び機材操作を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディング実習(フィールドレコーディング) 仕込み、オペレート、バラし、整音、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 21～24回目	レコーディング実習(ナレーション、アフレコレコーディング) 仕込み、オペレート、バラし、整音、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 25～27回目	卒業制作
【後期】 28～30回目	卒業制作
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験を実施し、レコーディングに関する全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、ProTools及びProToolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得します。
備考	特になし。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MA実習応用Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディング応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	音楽専門学校にてレコーディングを専攻。卒業後は音響関連会社に就職。 音響関連会社を退社後、フリーのエンジニアとして様々なアーティストや声優のレコーディング、映像作品やボイスドラマのMA作業に携わる。				
<b>授業概要</b>					
<p>①サウンド・ポスト・プロダクション・スタジオにおける、より実践的な音響／映像の信号の流れを学習し理解する。                  ②ナレーションやアフレコ、フォーリー及びサラウンドといった、サウンド・ポスト・プロダクションの応用技術を習得する。                  ③スタジオでの演者や監督等に対する、より実戦的な業務上必要な応対法等の習得など。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・ナレーション、アフレコ、フォーリーなどサウンド・プロダクションの流れを理解するとともに映像との同期など学び、業務上必要な応対法等の習得など実践に活かせるようにする。</p> <p>・サウンドポストプロダクションスタジオの信号の流れを理解し、ナレーション／アフレコ／フォーリーといったサウンド・プロダクションにおいて、マイク・セッティング／サウンド・チェック等、素早且つ確かな対応を行える。</p> <p>・音響機器と映像機器の連動の仕組みやポスト・プロダクションにおけるのワークフローが理解できる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro Tools/Video Slaveの的確且つ効率的なオペレーション能力の向上。
【前期】 4～7回目	CMIにおけるSE及びMEの統一感を含めた整音作業。 フォーリー作業が必要な箇所の考証とリスト作成。 フォーリー作業での発生音の工夫とマイクセッティング/編集、及びディレクション能力の向上。
【前期】 8～10回目	アフレコ収録。 アフレコセッション時のマイク及びルーティングのセッティング、各キャストと立ち位置、使用マイクの選定。 映像システムのセットアップの的確且つ迅速な対応能力の向上。
【前期】 11～13回目	簡易レコーダー、集音マイク素材を使用したの整音作業。 ノイズ除去ソフトRXを使用したノイズ除去。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を実施し、映像システムのセットアップの的確且つ迅速な対応能力が習得しているかを問う。
【後期】 18～20回目	サラウンドシステムのシグナルフローの学習と理解。 SE作成。
【後期】 21～24回目	SE作成。 アフレコ・ナレーション収録。
【後期】 25～27回目	卒業制作①
【後期】 28～30回目	卒業制作②
【後期】 31～34回目	■前期試験:実技試験を実施し、授業内でアフレコ収録。アフレコセッション時のマイク及びルーティングのセッティング、各キャストと立ち位置、使用マイクの選定。映像システムのセットアップの的確且つ迅速に行われているかMAとしての技術を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから応用まで、実践的な内容を想定して学んでいきます。 わからないところはわかるまで解説しますので安心して下さい。
備考	特に無し。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
著作物の定義や著作権者の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。					
<b>到達目標</b>					
音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権者の権利の内容を理解する 著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成&提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リクープラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を上げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。